

## 放射性セシウムの追加的放出量 (Bq/時)

福島県原子力安全対策課  
平成27年6月25日更新

東京電力福島第一原子力発電所廃炉対策推進会議では、1～4号機原子炉建屋からの現時点の放出量(セシウム)を、原子炉建屋上部等の空气中放射性物質濃度(ダスト濃度)を基に評価しています。

測定は、放射性物質が舞い上がるような作業が行われていない状況及び大物搬入口も閉塞された状態で行われています。

5月に実施された評価は下表のとおりであり、1～4号機の放出量の合計は、 $5.8 \times 10^5$ Bq/時未満であり、前月と同様に放出管理の目標値を下回っていることを確認しました。なお、これによる敷地境界における被ばく線量は0.0016mSv/年未満と評価しています。(0.016mSv/年は $1.6 \mu$ Sv/年であり、時間あたりに換算すると $0.00018 \mu$ Sv/時となります。)

### (1) 平成27年5月の状況

原子炉 建屋	ダスト採取場所	セシウム134 (Bq/cm <sup>3</sup> )	セシウム137 (Bq/cm <sup>3</sup> )	追加的放出量の 評価値 (Bq/時)	備考
1号機	原子炉上部 南側	$2.7 \times 10^{-6}$	$8.8 \times 10^{-6}$	$2.9 \times 10^5$	前月は $1.3 \times 10^5$ Bq/時
	格納容器ガス 管理システム	ND (検出限界 $1.5 \times 10^{-6}$ )	ND (検出限界 $2.6 \times 10^{-6}$ )		
2号機	BOP排気設備 システム出口	ND (検出限界 $3.2 \times 10^{-7}$ )	$6.5 \times 10^{-7}$	$2.2 \times 10^4$	前月は $2.7 \times 10^4$ Bq/時
	格納容器ガス 管理システム	ND (検出限界 $1.7 \times 10^{-6}$ )	ND (検出限界 $2.7 \times 10^{-6}$ )		
3号機	原子炉建屋 (原子炉直上)	$4.8 \times 10^{-5}$	$1.8 \times 10^{-4}$	$1.9 \times 10^5$	前月は $7.0 \times 10^5$ Bq/時
	格納容器ガス 管理システム	ND (検出限界 $1.7 \times 10^{-6}$ )	ND (検出限界 $2.9 \times 10^{-6}$ )		
4号機	燃料取出し用 カバー排気設備	ND (検出限界 $5.1 \times 10^{-7}$ )	ND (検出限界 $8.9 \times 10^{-7}$ )	$8.2 \times 10^4$	前月は $9.5 \times 10^4$ Bq/時
計				$約5.8 \times 10^5$	前月から 変化無し

(問い合わせ先 024-521-1917)